

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172101095
法人名	株式会社共寿
事業所名	グループホーム江並福寿苑
訪問調査日	平成 21 年 3 月 7 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並 福寿苑		
所在地	大垣市外濑4丁目97-1 (電話) 0584-87-2350		

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成 21年 3月 7日	評価確定日	平成 21年 3月 26日

【情報提供票より】(H21年 2月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤	7人, 常勤換算 7,51

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,550 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81,4 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大屋クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日常のどんな些細な事もできるだけ入居者の自己決定を尊重し、その人らしい人生を援助したいとの厚い思いを抱く職員の姿勢が、そのはつらつとした動きから感じ取れる。生き生きと動く若く活気ある職員が多く、日々の生活の穏やかさの中にも、入居者の笑顔に、孫と接するような表情があり、時には甘えたりいたわり合ったりの場面が日常的にみられるホームである。自分でできる範囲が狭められても、家族と共に最期まで看取りたいとの強い思いから、特浴室を新設し、重度者の受け入れも積極的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自治会に加入し、地元行事に参加したり、ホームの行事に協力してもらえる関係が整い、地元の理解や交流の機会が増えつつある。行政機関として、地域包括支援センターと連携がとれる体制を築きつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者のみが記入するのではなく、ユニットの担当者全員で記入して、自己評価に臨んでいる。日々の介護の振り返りや気づきから、さらに向上したいという前向きな姿勢で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市議会議員、家族にも参加してもらい、地元の理解も徐々に浸透しつつある。隔月に開催し、行事報告に終わらず、事故報告と対応策、職員の異動等ホームの実態を明らかにするなど、建設的な会議になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議とホーム行事を同日に開催することで参加家族が多く、率直な提案や意見を聞ける場にしている。玄関に苦情投書箱を設置してあるが、意見は出づらいため、面会時等に直接聞ける関係を築いている。意見や要望は、対応可能な事はすぐ対処する姿勢で臨んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	気候や天候さえ良ければ、毎日散歩に出かけている。地元の住民と触れあうように神社、保育園、中学校等を通るコースとし、気軽に声が掛け合え、談話できる雰囲気となっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で、その人が生きてきた暮らしを継続できるよう、その人らしい生活を支援する為に『楽しく自律した生活』を目指すという事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人独自の理念をエレベーターや事務所に掲げて、管理者と職員は月一回の全体会議に唱和し確認し合っている。日常生活の様々な場面で、入居者の自己決定できる働きかけをして、意向を尊重している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地元の行事(お正月・秋祭り)や地域活動等に出来る限り参加している。地元職員の面識や特定の方の訪問から、徐々に地域の関わりは広がりつつあるが、一般の方の来訪が少ない現状である。中学生の職場体験や高校生のインターンシップを受け入れている。		ホーム便りが目に触れる機会を増やしたり、自治会の回覧板を活用するなど、ホームからの働きかけに努力されたい。認知症の理解やホームの周知を深めていきたいとの管理者の思いの実現に向けての取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度は自己評価を行うことで、内容について各職員が見直し、外部評価を実施する意義を理解している。全職員が関わる事で、職員自身の振り返りや再認識ができ、改善に向けて、管理者と共に検討しながら改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、議員、参加可能な家族も出席する運営推進会議にしている。意見を職員会議の場で伝達して、検討策を考慮しながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出時や訪問の際に話したり、質問事項を電話連絡し必要な事は相談し助言をもらっている。市主催の研修会にも積極的に参加し情報交換できている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事で撮ったスナップ写真を送付したり、面会時に日ごろの生活ぶりや変化を話している。ホーム便りを季刊発行し、一人ひとりの身体状態等のコメントを記入し報告している。職員の異動については運営推進会議に報告し面会時に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が、意見や不満、苦情を言い出し難いということを理解し、面会時等の話し合いの中から家族からの意見を引き出す努力をしている。来訪が困難な家族には、電話をかけたり手紙を出している。運営推進会議の場で事故の状況や対応方法、家族からの意見を聞く努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係による安心感作りが重要と考え、初めての入居者にもある一定期間ベテランで経験の長い職員が対応している。異動や離職がやむを得ない場合も、馴染みの関係が築けるよう複数で関わるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては雰囲気慣れる事から、3ヶ月を目途に入居者のペースに合わせられるような育成を心掛けている。外部研修へは勤務の調整で参加し、月一回の全体会議で職員に周知している。貸付け制度等を活用しての資格取得へも積極的に取り組み、取得後は手当てに反映している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市主催の研修会に参加し、市内の同業者と情報交換や交流を図っている。他事業所の良い取り組みについて、ホームの活動に取り入れたり、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と共にホームを見学し、短時間でも入居者と過ごしたり、ホームの雰囲気を感してもらおう努力をしている。本人が納得された利用開始となるように、お試し入居のシステムへの取り組みを検討している。来訪が困難な入居予定者には、看護師、管理者、担当者が、2・3回自宅を訪問し、馴染める努力をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>季節によりプランターで野菜作りをしたり、一緒にお好み焼きやホットケーキを焼いたりしながら、入居者と色々な会話をするなかで、同じ目線で感じ受容する努力をしている。「あんた、腰大丈夫かな？」など入居者が気遣う程の関係性があり、入居者との信頼関係ができています。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の介護場面でわずかに発する言葉を聞き逃さず、入居者の思いを尊重している。外出の意向、おやつの種類、病状により個室で過ごす等、個別の意向を尊重している。訴えの少ない入居者には、側に寄り添い、時間をかけて聞き出す努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス計画表に、ニーズ、短期目標、長期目標、援助内容、頻度、期間等を符号化して記入し、チェックポイントシートで目標の達成度を確認している。月1回のカンファレンス時に、ユニットの職員全員で話し合いながら作成している。家族には、要望や気づきを伺い計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の見直しとしているが、病状や身体状況の変化に合わせて、その都度柔軟に作成している。介護記録は、入居者、スタッフ、反応と符号で記録したり、時間帯により赤字と黒字に使い分けて記載し、変化を見逃さない工夫をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診時には、通院先まで送迎している。短時間の利用や体験入居も、要請があれば対応できる体制としている。予防事業にも前向きな考え方をもち、新しい方向性に向けて努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回の連携医師による往診があり、必要に応じていつでも相談ができる関係になっている。医師の指示により看護師が夜間対応したり、翌朝受診したりしている。入居前の主治医や他の医療機関にも気兼ねなく受診できる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終身介護が伝えられており、経口摂取や自力歩行が困難になっても、最期まで看取りが可能である。面会時に家族の意向をその都度聞きながら、状況変化に合わせて勉強会をし、会議や申し送りで職員全員が情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に記載された記録物等については、事務所で保管とし、他人の目に触れない配慮をしている。ホーム外への持ち出し等による漏洩防止は、十分認識し徹底している。排泄や入浴時は、カーテンやドアを締めてプライバシーに気遣いしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は、生活リズムを崩さない程度に柔軟に対応している。日中の時間もホールで過ごしたり、居室で静かに過ごしたり、休息や談話も入居者の意思を尊重している。余暇活動の参加も希望を聞き、訴えない入居者の表情や仕草を大切に、ペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ブレンダーで野菜を作り食事に取り入れたり、季節の食材を使用し嗜好や希望を取り入れた献立を工夫している。使い慣れた箸やコップを使用し、食が進まない時は時間をずらしたり居室でも対応している。片づけなどできる力を見つけ出し、間食も数種類の菓子から、入居者が自分で選択できる工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の時間ではあるが毎日入浴は可能である。身体状態に合わせて、浴槽内昇降機や手すりや特浴など、個別にあった入浴の支援を行っている。季節により菖蒲湯、ユズ湯としたり入浴剤で気分転換を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の趣味や楽しみを聞き出したり、折り紙、貼り絵、陶芸、音楽療法等できる能力を引き出す工夫をしている。大型スーパーや喫茶店に出かけ、希望を聞きながら気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行困難な入居者は車いすを使用し入居者の意向や天候に合わせ毎日散歩に出かけている。地元の住民と触れあうように神社、保育園、中学校を通るコースとし、気軽に声が掛け合える努力をしている。日用品や服や靴の買い物は、購入商品に合わせて大型スーパーや百円ショップへ職員と一緒に同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は掛かっていないが、国道に面した構造の為、入り口は昼夜施錠し、生命の安全を優先している。鍵をかける弊害は、全職員が理解し入り口近くにこられる入居者には、話を聞いたり、外気に触れてもらう対応をしている。		立地条件から開錠は難しいと思われるが、入居者の様子や表情を見逃さず、職員配置や時間帯で工夫される努力に期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、非常用滑り台、脱出孔があり、消防署の防火診断を受けている。非常時に備え飲料水の確保や寒さ対策に予備布団を常備している。職員の緊急連絡網を掲示し、スプリンクラーの設置も検討している。		万が一の非常事態はいつ到来するか判らず、混乱を避ける為に定期的な避難訓練の実施を検討されたい。居室から屋外への避難経路は、誰でもいつでも見える場所に掲示される事を望みたい。緊急時の場合、より地域の方との協力も必要になる為、前向きな関わり方に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録やチェック表にてその都度記録し、摂取量が減少している入居者には、心身状況を観察し時間帯をずらしたり、希望する間食等で補食をしている。身体状況や嚥下状態でキザミ食やペースト食としている。水分補給もお茶、コーヒー、ココアからとれるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、畳敷きにこたつを置いたり、ソファを置いて自由に過ごせる環境を整えている。壁面には、入居者の作品を掲示したり、季節の折り紙や貼り絵で季節感が感じ取れる工夫をしている。ホールには乾湿計を置き、温度差を確認しながら、入居者の希望で天窓の開閉やカーテンで直射日光への配慮をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から慣れ親しんだ表札を掲げ、家具や調度品を持ち込んだり、孫の作品や額、書を飾り個々に合わせる工夫をしている。畳での生活を希望する入居者には、和室にベッドを配置している。オムツ入れの箱には布きれを張り付け違和感ない工夫をしている。加湿器や脱臭設備がしてあり、臭いもなく快適な居室にしている。		